

輝く



矯風会ステップハウス  
所長

松浦 薫さん

まつうら・かおる

東京都出身、50歳。OL時代、仕事に満足できなかった。「女性を支援する仕事がしたい」と思い、30代で大学の社会福祉学科に入学。実習場所が公益財団法人日本キリスト教婦人矯風会の関連施設。卒業後、そのまま就職した。ステップハウスは、同会が設置したDV・虐待などによる被害者の避難施設(有償)。最長6か月間保護して、被害者の生活再建に向けた準備活動を支援する。

e-mail k0101step@yahoo.co.jp

## 「DV支援に中立はない」 被害者の生活再建を支援

設置は、DV防止法制定前年の2000年。14年間に400人以上のDV被害者を受け入れ、「次にどう生きていくか希望が持てるよう支援」してきた。入所者は、職探しのほか夜間高校や資格・調理師学校などに通って自立の道を模索する。18歳から入所可能だが、16歳で避難してきた子もいる。子どもに虐待された高齢者やストーカーから逃れるために入所する人もいる。

『DV支援に中立はない』という先輩の言葉が忘れられない。「第三者から見ると被害者にも落ち度があったのでは、とつい思ってしまう。そんな気持ちがあったら被害者は私たちを信頼して前に歩みだしてくれない」。経験を積んだ現在、この言葉は正しいと心底思っている。自分の仕事は、ジャッジではなく、あくまでも「被害者の生活再建のサポート」と肝に銘じている。被害者も『相手が悪い』という気持ちに囚われていると、なかなか次の一歩が踏み出せない。『つらい経験だが、あれがあったから今の自分がある』という入所者も結構いる。「トラウマを克服して前に進んでくれるような支援のあり方」が次の課題だ。